

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新潟県立国際情報高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒949-7302

新潟県立南魚沼市浦佐 5664 番地 1

E-mail shcool@kokusai-jouhou.nein.ed.jp

Website http://www.kokusai-jouhou-h.nein.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 160 名 女子 236 名 合計 396 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

1. SGH 活動

①1 学年は 3 月の海外研修(シカゴ、シドニー、シンガポール/マレーシア)に向けて南魚沼市の特徴や特産品などをグループで調べた。オーラルコミュニケーションを活用し、英語でプレゼンテーションの練習をした。姉妹校等を訪れた際、実際にプレゼンテーションを行い交流を深めた。

②2 学年はグループごとに地元の課題解決をするため、ディスカッションやフィールドワークをおこなった。予算や解決方法が現実的なのか、訪問先の企業や市役所の担当者の方から様々な意見をいただいた。

③SGH「魚沼学」の一環で、田植え、草取り、稲刈りをおこなった。地域の基幹産業である稲作についてより深く学び、勤労・収穫する喜びを体験した。また、働くことの意義・食料の大切さ・自然の豊かさ・環境問題などを身をもって、考える契機となった。

2. 国際理解学習

①授業（英語）

コミュニケーション英語の授業を通し、英語でディスカッション・プレゼンテーションをおこなった。批判的思考でものごとを深く考えることで世界の情勢や日本と他国との関係についても興味を持つようになった。

③姉妹校の生徒との交流

アメリカ、ユタ州の学生や姉妹校のエバンストン高校の生徒との交流や日本の文化紹介のプレゼンテーションを通して、異文化を理解するだけでなく日本の文化を再認識した。また、1年次にホームステイをさせてもらったスクールバディとの再会を喜んだ。

3. ユネスコ部

①ユニクロの「届けよう、服のチカラプロジェクト」に参加した。難民問題について学び、子ども服の回収活動を行った。近隣の小学校とも協力をし、1,000枚を送ることができた。

②海外の生徒が来校した際、英語で日本文化や学校紹介のプレゼンテーションをおこなった。

③文化部発表会で世界の料理やお菓子の作り方やレシピをポスターで紹介した。

4. ボランティア活動

市内の総合支援学校やデイケアセンターのイベントの運営サポートや海外留学生に地元の毘沙門堂のツアーガイドボランティア、ブナの植樹活動などに多くの生徒が積極的に参加した。



1. ③SGH 田植えの様子（2学年）



3. ①届けよう、服のチカラプロジェクト



1. ①シドニーレイチェルジョンソン高校



4. 毘沙門堂ツアーボランティア

2) 活動の詳細

① 活容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

・スーパーグローバルハイスクールの課題研究の一環として３月に海外研修を行っている。今年度は、シンガポール・マレーシア、アメリカ合衆国、オーストラリアにおいて姉妹校を含む現地の高校生・大学生に対し、地域の文化・産業、自身の学校生活などについて、英語で発信し、フィードバックを得た。

・学校設定科目の「スーパーグローバル国際」及び「スーパーグローバル情報」を利用して発表準備を行った。

・次年度の４月には海外研修の振り返りを行うとともに、全校生徒に向けて代表生徒による海外研修報告会を実施する予定である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌としてグローバル部ＳＧＨ課（スーパーグローバルハイスクール課）を設置し、３年間を通した取り組みを行うための体制を整えている。さらに、学年や教科のバランスを考えたメンバーによるＳＧＨ運営委員会を設置し、活動計画を立てるとともに、生徒が活動する際にはコーディネーターとして参加するようにしている。また、年２回の報告会を開催し、上級生から下級生に向けたピアサポートを実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ＳＧＨ運営指導委員（外部有識者）から活動の評価をしていただいた。生徒がＳＤＧｓの１７の目標ができた背景を理解するとともに良いとの意見をいただいた。内部評価では「主体性」や「論理性」等の評価に関して、内面の変容を客観的に評価することを目標とし、「ポートフォリオ」を取り入れた。生徒に対して、自らの取り組みや変化を省察し、感想をデジタルポートフォリオに入力させてテキストマイニングで分析をかけた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・ 6 月に S G H 報告会を開催し、2 年生代表グループによる S G H の課題研究の一つである「魚沼学②」の進捗発表と、3 年生の代表者による英語論文発表を行った。報告会では 3 年生が中心となって実行委員会を結成し、2 年生と協力して企画・運営に携わった。
・ 年 2 回発行の「S G H 通信」をホームページ上に掲載すると共に、各中学校に送付し好評を得た。また、研究開発実施報告書を作成し、新潟県内の各高校に配付する予定である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・ 魚沼学の講師紹介を南魚沼市復興支援センターに依頼し、連携を図った。
・ 報告会や成果発表会もより多くの人に参加してもらうために、市報等に案内を出し、地域の人にこの取り組みを知ってもらうような努力を行った。なお、本校の S G H をきっかけとして平成 29 年 11 月には一般社団法人愛・南魚沼みらい塾が立ち上がり、今後は、そちらの法人と連携していく予定である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は国内外のユネスコスクールとの直接的な交流は行っていない。しかし、スーパーグローバルハイスクールに指定されている高校の中には、本校と同様にユネスコスクールである学校も入っているため、S G H 活動における様々な発表会等への参加を通して、それらの高校とも意見交換を行ってきた。今後はこれらの関係性を利用して、ユネスコスクール同士による直接的な交流が行えるように工夫していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

・どの教科においても授業研究が進み、以前よりグループワークやアクティブラーニングの手法を取り入れた授業が多く見られるようになった。
・海外研修に参加する条件として実用英語技能検定準2級取得を挙げているため、生徒による英検に対する取り組み状況が良くなった。
・SGH活動に関する発表会を開催することで、これまで来校したことがない地域住民が本校に訪れるようになり、地域に根付いた高校へとなりつつある。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

・県内や魚沼の地元企業についてグループワークを通して批判的思考力・論理的思考力・プレゼンテーション能力を養う。
・明治大学・国際大学の専門家、地元自治体・企業の実務家等による講義を受けたあと、4～5人のグループに分かれ、魚沼の魅力や課題についての調査やフィールドワークを実施し、その結果をまとめる。
・アメリカ、オーストラリア、アジアにおいて、フィールドワークを行うとともに、現地の高校生または大学生に対して世界的な課題や社会問題における取り組みについてアンケート調査をする。
・海外研修で得たフィードバックを踏まえて魚沼の地域課題について考え、解決策を模索する。地元企業・団体や大学研究室を訪問するフィールドワークを行い、情報を集めるとともに、自らが考えた魚沼の地域課題を解決するプランについてアドバイスをもらう。
・世界の地域課題に関する英語論文を完成させ、報告書にまとめる。